すべての瞬間を楽しんで生きることをみんなで支えて叶えたい

横浜こどもホスピスプロジェクト

ニュースレター
創刊号
2018年7月発行

こどもホスピスの建設資金は、あと一歩！

NPO法人横浜こどもホスピスプロジェクト　代表理事　田川　尚登

いつもご支援ありがとうございます。

昨年7月に認定NPO法人スマイルオブキッズから新法人を立ち上げ、2期目に入りました。引き続きこどもホスピス建設用地の取得に向け横浜市と協議を続けております。その一方で今年度は２つの助成金を獲得し、6つの事業を展開してまいります。

神奈川県のかながわボランタリー活動推進基金21負担金事業は、県との協働事業として①小児がん等でお子様を亡くされた遺族へのニーズ調査を県内のご家族を対象に行い、結果をこどもホスピスの利用サービスに生かしていきたいと考えています。②病児と遊びの研究会(5回シリーズ)は、昨年に引き続き小児病院や福祉施設、こどもホスピスのボランティア人材育成につながる活動として位置づけ、③広報啓発活動としては、11月3日と1月に小児緩和ケアに関する講演会・コンサートを開催する予定です。また厚労省外郭団体の福祉医療機構の助成金事業は、④我が国では歴史の浅い小児緩和ケアの一般向け研修会を11月と2月の2回開催予定です。さらに⑤小児病院から治療を終え在宅へ移行する子どもと家族に関りのある医療・福祉等、多職種連携の勉強会を専門家と共に開催します。最後に、来年2月には⑥こどもホスピスの発祥の国英国やドイツ、オランダのこどもホスピス運営者をお招きして、各国の小児医療の現状や施設利用に関する意見交換を行うシンポジウムを開催予定です。

今年2月に開催しました「第1回全国こどもホスピスサミットin横浜」では、医療関係者からも多くの参加があり、子どもと家族の在宅支援施設であるこどもホスピスの役割とこどもホスピスのイメージの変化について多くの方の共感と理解を得ることができました。この流れを継続していくことが私たちNPO活動の役割と考えます。また同じ目標を持つ札幌や福岡と共に連携して、子どもの緩和ケアに関する在宅支援施設が全国に広がっていくことを願って、こうした活動を続けていく所存です。

資金面では、2015年当初の建設費用募金目標額の3億円まであと1000万円、もう一息のところまで来ました。これもひとえに皆様のご支援の賜物と厚くお礼申し上げます。目標額を達成することで、開設に向けた取り組みへの理解も一気に加速するものと考えます。2020年の開設に向け準備を進めてまいりますので、今後とも皆様のお力添えを賜りますようご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「第 1 回全国こどもホスピスサミット in 横浜」を開催しました

2018 年 2 月 11 日、国内こどもホスピス関係者の協力を得て「第 1 回全国こどもホスピスサミット in 横浜」を開催しました。神奈川県の首藤健治副知事と横浜市の増住敏彦医療局長からも力強い応援のメッセージを頂戴し、立ち見が出るほどの大盛況の中、シンポジウムは始まりました。

第 1 部：小児緩和ケアと子どもの命

第 1 部・基調講演のテーマは、「小児緩和ケアと子どもの命」。

神奈川県立こども医療センター新生児科の豊島勝昭先生、横浜市大附属病院脳神経外科の山本哲哉先生、NPO 法人シャイン・オン・キッズ、ファシリティードッグハンドラーの森田優子さんの 3 名のご講演で共通していたのは、子どもとご家族の命の輝きを大切にすること、地域生活の支援が不可欠であるということでした。

森田優子さん

山本哲也先生

豊島勝昭先生

「こどもホスピス」は諦めや看取りの場所ではなく、豊かに生きることを支える場所。

第 1 回全国こどもホスピスサミットの目的は、「こどもホスピス」を多くの方に知ってもらうことと、全国に広めていくために連携強化をすることでした。「こどもホスピス」関係者だけではなく、地域の一人一人がこども達の笑顔を守るためにできることを考える。そんなきっかけになったならば、これほど嬉しいことはありません。

第２部：こどもホスピスの現状とパネルディスカッション

第２部は、冒頭に昨年 10 月に視察に訪れた英国のこどもホスピス「フランシスハウス」の映像と代表者 David Ireland 氏のサミットへのメッセージをご紹介し、北海道こどもホスピスプロジェクトの佐藤貴虎先生に「こどもホスピス」の世界基準についてご説明いただきました。

日本の実情については、淀川キリスト教病院こどもホスピスの鍋谷まこと先生、国立成育医療研究センター「もみじの家」の内多勝康さん、TSURUMI こどもホスピスの水谷綾さんに事業紹介をしていただいた上で、開設準備をしている福岡子どもホスピスプロジェクトの濱田裕子先生と北海道こどもホスピスプロジェクトの佐藤貴虎先生にも活動内容を発表していただきました。

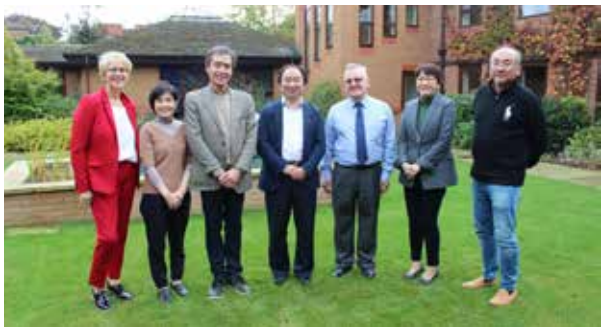
後半のパネルディスカッションの進行役は、昭和大学病院内「さいかち学級」の副島賢和先生。慈恵会医科大学の柳澤隆昭先生にイギリスの小児緩和ケアの状況や「こどもホスピス」の現状をお話しいただき、各施設・団体の強みや社会に期待することを共有し、今後のこどもホスピスの目指していくこととして【横浜宣言（2018 年２月 11 日合意）】を発表し、終了しました。

第１回全国こどもホスピスサミット　横浜宣言（合意）

1　こどもホスピスは、医療、福祉、教育の狭間にいる子どもや家族に寄り添います。
2　こどもホスピスは、命の脅かされている子どもと家族に、豊かな時間を提供します。
3　こどもホスピスは地域とともに歩む、開かれた施設を目指します。
4　私たちは、小児緩和ケアに取り組む支援施設を全国に広げていくため協力し合います。

英国マンチェスターのこどもホスピス「フランシスハウス」を見学してきました

2017 年 10 月に英国マンチェスターにある小児ホスピスを訪ね、利用状況や運営についてお話を伺ってきました。０歳から 18 歳までの子ども用の施設と AYA 世代と呼ばれる 19 歳から 39 歳までが利用できる施設があり、89 人のスタッフと多くのボランティアに支えられ運営しています。英国のホスピスらしいしっかりと地域に根ざした活動が印象的で、サッカーのマンチェスター・ユナイテッドの選手が定期的に訪問するなど、利用している子ども達に寄り添った支援からも、地域住民の誇りの施設という位置づけになっていることがよく理解できました。また施設に入った途端、優しい何とも言えない空気感に包まれていることが感じられ、横浜に施設完成後には「この空気感」を出せるようにしたいと強く感じました。2019 年２月には、日本にお呼びしてアドヴァイスをいただく予定です。



チャイルドライフスペシャリストの山地さん、北海道こどもホスピスプロジェクト代表理事佐藤先生、小児脳腫瘍の会代表馬上さん、（株）スマイルワンの星野さんと視察に行きました。

「第１回全国こどもホスピスサミット in 横浜」寄稿

「第１回全国こどもホスピスサミット in 横浜」の開催に際し、関係ある皆さまから言葉をお寄せいただきました。

「第１回全国こどもホスピスサミット in 横浜」に参加して

神奈川県副知事　首藤　健治

第１回こどもホスピスサミットが、関係者様の熱い志の元、横浜の地で開催されましたことを心より嬉しく思います。

本サミットでは、子どもたちの死に向き合っている様々な立場の方々の取り組みや課題が紹介され、残された時間としては限られている「いのち」の『輝き』について、多面的で活発な議論が展開されました。

今、Society5.0 とも言われているように、人工知能やロボット技術の開発が急激なスピードで進んでおり、世の中の形も大きく変化しようとしています。新しい技術が社会に変革を求め、就労を初めとして、社会参加や社会貢献の在り方など人と社会の関係もダイナミックに変貌しようとしています。その中で、人が人としていかに「いのち」を『輝かせる』ことができるのか、そのために必要なものは何であるのかといった議論も活発に行われるようになってきました。このテーマは、神奈川県政においても最重要課題として取り組んでいるところです。

こどもホスピスサミットでの議論も『輝くいのち』の核心に触れるものであり、様々な可能性を示唆してくれました。こどもたちやご家族が直面している課題解決とともに、本質的に求められている社会の在り方を皆様方とともに考え、前に進めればと思います。

「第１回全国こどもホスピスサミット in 横浜」に参加して

横浜市医療局長　増住　敏彦

「第１回全国こどもホスピスサミット」が、大変多くの参加者をお迎えし、ここ横浜で開催されたことは、大変喜ばしく、改めてお祝いを申し上げます。

今回、日本ではまだまだ認知されているとは言い難い「こどもホスピス」の施設の意義や役割について、一人でも多くの方々に知って頂きたいということで行われたサミットに、参加させていただきました。基調講演やシンポジウムからは、発表者やパネリストの方々の熱意と意気込みが伝わってきました。

また、会場に入りきれずロビーにあふれてしまうほどの参加者の方々からは、和気あいあいとした温かな空気の中にも活動を支援したいという強い思いを感じ、改めて、みなさまのエネルギーと関心の深さに感服いたしました。

横浜市としても、「よこはま保健医療プラン2018」において、「長期的な在宅療養生活を送る子どもや家族に対し、生活の質の向上を支える活動を行う民間団体等の活動を支援する」こととしています。

今後も、こどもホスピス設立に向けた活動がさらに発展すること、また、一般の皆様のご理解が深まり、活動支援の輪が広がっていくことを期待しています。

事業参加者の声

サンタクロース訪問事業

横浜市大附属病院小児科にフィンランドのサンタクロースを連れてクリスマス訪問する活動は、３年前から地元企業と協力して行ってきました。昨年も子どもたちが待ちわびていると聞いて資金を調整し、無事にサンタクロースと一緒にプレゼントを配りに行くことができました。今年度も是非継続したい活動です。

家族写真を撮影するという事

〝Photoletter itsumo〟フリーランス・カメラマン
諏訪　友里

「家族写真を綺麗に残しておきたい」
そんな想いを抱くご家族様がいらっしゃるのであれば、条件や場所に捕らわれず「会いに行きます」というスタンスで、カメラマンというよりも一人の「人」として家族の思い出作りに参加させていただいています。そんな私の想いを優しく受けとめ、依頼をしていただいた今回のサンタさん撮影。
撮影を通して、やはり純粋に「喜んでもらいたい」という企画者全員の気持ちと本物のサンタさんを目にしたお子様一人一人の反応がとても素敵だと感じました。特に印象に残ったのは、ご家族様の反応でした。「ありがとうございます」と嬉しそうに目にうっすら涙を浮かべていた姿やお手持ちのカメラでも一生懸命サンタさんとお子様の写真を撮影する楽しそうなご両親の姿を撮影しながら、病院という場所が「治療をするだけの場所」ではなく、家族で過ごす場所、共に成長を感じ、喜び合える場所、人と人が心から触れ合う場所にすることが出来るという可能性を感じました。
少しずつでも今回のようなイベントを通して季節を感じたり、触れ合うことを互いの「楽しさ」に繋げていける取り組みをご家族様の声を聞きながら増やしていけたら素敵だなと改めて感じました。
そんな素敵な瞬間、互いに生きる「今」という物語を残すお手伝いが出来たこと。今回の機会に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

※諏訪様にはプロボノでご協力いただきました。心より感謝申し上げます。

人材育成事業：遊び方研究会

病気のお子さんの日常は、様々な制約がある病室という空間か自宅で過ごすこと以外の選択肢が限られていますが、病気であっても子どもは遊びや人との関わりを通して楽しみを見つけ、成長し続けます。「遊び方研究会」は病気のお子さんやご家族のための遊びを通した支援を考える場として計３回開催しました。

遊び方研究会に参加して

医療ケア児・ベビータッチケア〞空日和（karabina）〞大野さと子

私が遊び方研究会に参加させていただいたのは、自分自身の活動で出会うお子さんやお母さんとの遊び時間を、より充実させるために学びたい！と考えたからです。
参加する前の私は、どのようなおもちゃをどのように提供すべきか？といったように、遊びに対して難しく考えていたように思います。そんな私でしたが、身近な物を使ってオモチャを手作りする！というワークでは近くに座っていた皆さんと一緒に夢中になって作成しオモチャを発明する“楽しい気持ち”をたくさん味わいました。「いいこと考えた！」と言い合いながらつぎつぎにオモチャを作り披露しあい、自分では思いつかなかったアイデアに驚いたり、個性的なデザインに感心したりしました。見ていて面白い！触って不思議・・。しかけに驚く！など、おもちゃを作りながら子ども達をどんなふうに喜ばせようか考えていましたし、まさに作成している作業そのものがもう遊びでした。難しく考えることなく、まずは自分自身でも楽しいことを感じてみることが大切だと気づきました。
また、素敵な講師や参加者の皆さんとの嬉しい出会いにも感謝しています。

平成 29 年度活動計算書
(2017/7/31 ～ 2018/3/31)

科目		合計（円）
Ⅰ．経常収益		
1. 受取会費	1,200,000	
2. 受取寄附金	32,853,284	
3. 受取助成金等	1,783,000	
4. 事業収益	0	
5. その他収益	55	
	経常収益計	**35,836,339**
Ⅱ．経常費用		
1. 事業費	1,890,873	
2. 管理費	7,175,858	
	経常費用計	**9,066,731**
	当期経常増減額	26,769,608
Ⅲ．経常外収益		
	0	0
Ⅳ．経常外費用		
税引前当期正味財産増減額		26,769,608
法人税、住民税及び事業税		8
当期正味財産増減額		26,769,600
前期繰越正味財産額		0
次期繰越正味財産額		26,769,600

平成 29 年度事業報告書
(2017/7/31 ～ 2018/3/31)

①小児緩和ケアに関する実態調査や啓発及び普及活動

ア　小児がん啓発イベント
- 内容 : 第 1 回全国こどもホスピスサミット in 横浜
- 日時 :2018 年 2 月 11 日
- 場所 : かながわ労働プラザ 3 階ホール
- 従事者人員 :20 人
- 対象者 : 小児医療に関心のある方
- 参加者 :300 名

イ　こどもホスピス普及活動
- 内容 : 小児病棟へのサンタクロース訪問
- 日時 :2017 年 12 月 26 日
- 場所 : 横浜市立大学附属病院小児科
- 従事者人員 :4 人
- 対象者 :60 人

ウ 実態調査
- 内容 : 小児ホスピスを開設後の施設運営時のサービスに反映させるため、ご家族の闘病中に必要とした支援や困難だったことなどの体験等のヒヤリングを実施するための準備活動。
- 日時 :2018 年 3 月 26 日
- 場所 : 横浜市立大学看護学科
- 従事者人員 :5 人
- 対象者 : 難病等によりお子さんを失くされたご家族

②小児緩和ケアに関する人材の育成に関する事業
- 内容 : 重い病気や障害がある子ども等に対する接し方や遊び方の講習会の開催
- 日時 :2017 年 8 月 5 日、9 月 6 日、12 月 23 日
- 場所 : 市内会議室
- 従事者人員 :10 人
- 対象者 : 小児医療に関心のある一般の方、医療職や保育士等を目指す方
- 利用参加者 :80 名

③その他、本法人の目的を達成するために必要な事業
- 特になし

平成 30 年度事業予定

①かながわボランタリー活動推進基金 21 負担金事業

●こどもホスピスと小児緩和ケア講演会とコンサート

▷「第 1 回子どものいのちと向き合うセミナー＆コンサート」
日時：11 月 3 日 (土)　13 時 30 分～
場所：はまぎんホール・ヴィアマーレ
(JR 桜木町 5 分)
講演：前田　浩利
(医療法人財団はるたか会　理事長・子ども在宅クリニックあおぞら診療所せたがや　院長)
講演：副島　賢和
(昭和大学大学院保健医療学研究科准教授・さいかち学級担当)
ピアニスト：斎藤 守也（from レ・フレール）

▷「第 2 回子どものいのちと向き合うセミナー」
日時：2019 年 1 月 26 日 (土)
場所：神奈川県民サポートセンター 2 階ホール
講演：池川　明 (産婦人科医師)　他

●病児と遊びの研究会（5 回シリーズ）

▷ 6 月 16 日、8 月 25 日、10 月 20 日、12 月 8 日、1 月 19 日 (各回 40 名)
場所：日本丸訓練センター・関内フューチャーセンター

●小児がん患者の遺族等を対象とした調査

▷通年

②独立行政法人福祉医療機構助成金事業

●こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム

▷ 11 月 23 日～ 25 日 (第 1 クール)、2 月 9 日～ 10 日 (第 2 クール)
場所：関内フューチャーセンター他

●多職種連携勉強会

▷ 9 月 2 日、9 月 22 日、11 月 18 日 (各回 30 名)
場所：関内フューチャーセンター・県民サポートセンター予定

●第 1 回世界こどもホスピスフォーラム (イギリス・ドイツ・オランダ・日本予定)
日時：2019 年 2 月 11 日
場所：はまぎんホール・ヴィアマーレ

③自主事業

●小児病棟サンタクロース訪問
日時：2018 年 12 月 24 日
場所：横浜市立大学附属病院小児科

ご寄付一覧
（順不同・敬称略）（2017 年 8 月 ~2018 年 6 月）
ご支援、ありがとうございました

【会費・寄付によるご支援者】

小林　猛・千賀子 / 志澤　直樹 / 小島　桂子 / 小山　桂子 / 長沢　保 / 山口　みどり / 鈴木　正雄・星子 / キラキラ湘南 / 亀井　洋子 / 小林　英夫 /（株）サムスン日本研究所社員一同 / 土岐　正身 / 小瀬村　芳明 / ハラ　タカコ / 小鹿野　美穂 / 菱沼　久美子 / 須佐井　信子 / 重森　大成 /（一社）横浜市薬剤師会 / 仲亀　晃央 /（株）安藤建設 /（宗）弘明寺 / 山崎　香織 / 佐藤　幹枝 / 塩見　健三 / 土谷　勇雄 / 丸山　由珠 / 山本助産院（山本詩子）/ 青柳　充彦 / 石川　華子 / 石田　美千子 / 大嶋　博之 / 黒澤　宗剛 / 黒田　光子 / 小峰幼稚園 / 佐藤　庄一郎 / 塩森　芳枝 / 十文字　貞夫 / 田中　朝美 / 中尾　和子 / 中塚　陽子 / 矢島　美代 / 横山　新一郎 / 米山　勝子 / 篠崎　暁子 / 阿出川　俊夫 / 安保　さよ子 / 大村　恵子 / 大山　郁子 / 塩山　泉 / 瀬尾　公子 / 堂ノ脇　利々 / 細谷　和一郎 / 米山　潔 /（株）NB 建設 / 阿部　ひろみ / 天海　百合子 / 池田　龍子 / 稲葉　孝恵 / 及川　孝子 / 大江　まみ子 / 児玉　洋子 / 佐藤　佐栄子 / 佐藤　とく / 三晃商事（株）/ 泉水　恭子 / 瀧口　秀之 / 武川　幸子 / 角田　宏子 / 津呂　正代 / 野瀬　美砂子 / 林　勝 / ひまわり交通（株）/ 青木　礼子 / 松井　秀孝 / 湯川　仁 / 安井 圭則 / 吉田 あけみ / 宮谷 英恵 / 熊澤　美香 / 小林 清 / 長田 由夏里 / 津嶋 功 / 久保田　綾 / 永田　明子 / 森山　嘉代子 / 若狭　静枝 / 井上　秀枝 / 金井　玲子 / 草場　春美 / さいとう小児科 / 藤間　繁 / 松村　美千代 / 丸茂　弘子 / 明吉　眞由美 / 石川　基子 / 今村　恭子 / 江波戸　洋子 / 及川　浩次郎 / 松本　美和子 / 山ノ井　恵子 / 吉森　英孝 / 羽鳥　廣法 / 小田切利夫 / 高市　方子 / 小山田　豊 / 門田　由美 / 木村　裕毅 / 深澤　時江 / 宮崎　節子 / 市川　利子 / 竹沢　佐知子 / 脇本　正和 / 木村　清一 / 酒井　伴美 / 柴田　恭子 / 平野　まり子 / 三浦　則子 / 椋棒　弘子 / 山室　陽子 / 土居　久子 / 水島　朝子 /（株）京浜スチール工業 /（医）スマイルこどもクリニック東戸塚院 / 上田　美代子 / 加藤　靖子 / 小松　清子 / 佐藤　綾子 / 須藤　克哉 / 八木　佐知子 / 嶋田　哲也・淑男 / 高森　浩信 / 竹内　啓介 / 中区区民祭り募金 / 大津　満子 / 神谷　修 / 新楽　和則 / 田中　寧子 / 福島　敬子 / 湯浅　陽子 / 河村　ふゆき / 関口　眞由美 / 斎藤　恵美子 / 高尾　節子 / 村山　明 / 山本　悦子 / 木下　和子 / 田川　正志 / 寺村　昌子 / 久住　存 / 高橋　房子 / 浅村　澄子 / 鶴田　直子 / 竹村　律夫 / 山岸　千彰 /（株）横浜高速鉄道 / 赤峰　秀樹 / 西原　次江 /（有）湘南コミュニティ / 片岡　順子 / 原　尚子 / 稲部　澄子 / 船越　祥子 / 藤原　栄子 / 佐藤　良子 / 安達　かほる / 大野　乃里子 / 松本　恵里 / 赤坂　昌一 / 稲葉　昌子 / 川田　妙子 / 鈴木　将彦・瑞穂 / 榎本　義彦 / 髙橋　瑞穂 / 吉田　久美子 / 古性　操 / 吉田　征子 / 川崎　裕司 / 佐々木　拓雄 / 吉田　孝子 / 佐藤朝美 / 鳥澤　竹彦 / 磯ヶ谷　政久 / 福島　亮一 / 山崎　眞理江 / 有賀　実男 / 大堀　健太郎 / 西村　博子 / 津田　貞夫 / 野口知恵子 / 宗像　正子 / 伊藤　みさと / 岩田　安里 / 久保田　満子 / 野口　稚子 / 水口　幸治 / 三石　尚武（佳子）/ 吉井　豊 / 渡邊　陽子 / 田中　宏子 / がん哲学外来シンポジウム参加者 / 鈴木　京子 / アフラック横浜総合アソシエイツ会 / 金子　サキ / カトリック鍛冶ヶ谷教会 / 本橋　一樹 / 北沢　慶三 / オオトシ　カズヨ / 岡山　幸弘 / 幼保小連携推進地区事業大豆戸地区推進委員長 / 井上　純子 / 佐々木　健 / 森　智恵子 / 東京医療学院大学 / 杉山　真紀 / 島澤　竹彦 / 境木地蔵尊 / ぷかぷかカフェ / 田中　知宏 /（株）一品香 /（株）メモワール / トルコキキョウの会 / 星野　利勝 / 土志田建設（株）/ 原田　芙有子 /（株）ヒューマンリソースミライ / みんなのレモネードの会 / リョーコーホーム（株）/（一社）希望を未来につなぐプロジェクト / 秋山　理央 / 伊倉　愛子 / 鈴木　道弘 /（株）阿部鋼業 / 井上富子 /（株）横濱屋 / ウチダエスコ（株）/ 椛澤 由博 / 大洋建設（株）/ 田中　治美 / 宮道　不二男・京子 / 川瀬　舜太郎 /（特非）難病治療開発を支援する会 / 高野山真言宗寺族婦人会神奈川支部 / 池川　明 / 山内　哲夫 / 田邊 宏幸 / 小島　典子 / 田島　玄太郎 / 石井　由紀子 / 稲部　澄子 /（株）かんぽ生命保険 / 小嶋英雄 / 山崎　勝子 /（株）リージェン / 大野　さと子 / 大野　保則 / 黒田　勝治 / 山崎　稔 / 藤田　俊徳 / 小林　和子 / 高橋　ソノ / 鈴木　英樹 / 松村　清美 / 門倉　留理子 /（株）MORIAI/ 渡辺　さなえ /（株）せんざん /（有）仁天堂薬局 / 横浜こどもホスピスを応援する会 / 井上　玲子 / 大家さん向上委員会事務局 / 木崎　光子 / 中尾　千代子 / 高木　伸幸 /（一財）高橋貞子記念会 / 小瀬村　芳明 / 西谷地区社会福祉協議会（中村美智子）/ 本多　なほみ / 大崎　逸朗 /（株）ありあけ / 岩崎　純士 /（株）オンリーワン２１ / 川瀬　弓子 / 田川　尚登 / 内藤　三紗子 / 保坂　一成 / 森村学園中学・高等部 / 藤田　寿枝 / チベットレストラン＆カフェ　タシデレ / 千久田　恵 /（株）ピローズ / 湘南藤沢 mama's / Linorino flower design/ 輿石　且子 / 秋山 学 / 山本　悦子 / チャリティーオープンマイク櫻の華になろう宿河原ポトス参加者 / 柴田　亜希子 / 福田　清 / 中島　幸二 / 浅沼悦子 / 小山　桂子 / 岡田　千衣子 / 溝呂木　亜矢子 / 村田　実智子 / 北田　敏子 / 黒木　理英 / 斎藤　昇

【よこはま夢ファンド】

（横浜市が掲載を確認された方。2018 年 4 月末まで）
麻生　俊英 / 三好　明美 / 飯山　さちえ / 鵜澤　恒広 / 小林　猛 / 岩田　慶隆 / 飯野　幸久 / 認定 NPO 法人あっちこっち / 伊藤　泰 / 安藤建設安全衛生協議会

【イベント協賛】

株式会社メモワール / トルコキキョウの会 / リージェン（株）/（株）せんざん / ウチダエスコ（株）/（株）安藤建設 / ニューチャーハウス（株）/（一社）希望を未来につなぐプロジェクト / みんなのレモネードの会 /（株）仲亀 / ひまわり交通（株）/（株）阿部鋼業 / 池川クリニック /（株）オンリーワン２１ /（株）四元工美 /（株）ヒューマンリソースみらい /（株）横濱屋 /（株）徳建 / 大洋建設（株）/（株）ありあけ / 横浜サルビア法律事務所 /（株）かんぽ生命保険横浜支店 /（特非）難病治療開発を支援する会

【募金箱設置】

ベーカリーハウス　アオキ / スマイルガーデン /Bravissimo/ ビィーンズファーム / ヘアーサロン・タカキ / 壮健堂治療室 / 山本助産院 / 花屋こはな / 輿石且子事務所 / 角田宏子事務所 / スマイル食堂 / 八景写真館 / 八木薬局 / ヨコハマホップ / 瀬田クリニック新横浜 /BAR LUZ/ 大和・綾瀬理容組合

編集後記

小児がんを経験した横浜市在住の榮島四郎君 (10 歳) たちは、普段からレモネードスタンドでレモネードを販売しながら小児がんの啓発運動を行っています。この度「しろさんのレモネード屋さん (吉備人出版)」という絵本が出版されました。その中に、病気の有無に関わらず全ての子どもと家族が遊べるレモネード遊園地が出てきます。そのような遊園地をこどもホスピスの敷地内に作ったらと夢を語ってくれました。子どもの視点はとても大事ですね。今後も四郎君や地域の子どもたちと一緒にアミューズメントの部分を考えていけたらと思っています。（田川）

入会キット（バッジ、クリアファイル、会員証）を作りました

新法人立ち上げに伴い、会員の皆様にお届けする入会キットを作りました。イラストは、仙台在住のニィーナさんがご提供くださいました。ゆったりと微笑む太陽は、病気や障がいの有無に関わらず全てのお子さんとご家族をあたたかく見守る存在として、こどもホスピスのイメージにぴったりだと思いました。この太陽の笑顔が沢山の方の目に留まり、「こどもホスピス」の理解促進に繋がることを願っています。今後は一般販売も検討していきます。

（ニィーナ阿部・プロフィール）
1988 年渡米、UCLA グラフィックデザイン科専攻、1992 年帰国後武蔵野美術短期大学グラフィックデザイン科卒業、その後　こども絵画造形教室講師を経て、現在は虹色の癒しの絵描きとして活動中。

◎絵本「マナの実」出版＠新風舎（2006 年）／◎フラダンス専門誌「Hula lea（フラレア）」＠文踊社（2007 年～ 17 年）挿絵連載

『あかはなそえじ先生』が横浜こどもホスピスプロジェクトの応援アンバサダーに！

昭和大学病院内さいかち学級の『あかはなそえじ先生』こと副島賢和先生が横浜こどもホスピスプロジェクトの応援アンバサダー第１号になってくださいました。入院中の子どもたちの「子どもとしての時間」や「自分でいられる安心な場づくり」を大切にして日々子どもたちと向き合う先生の眼差しは、限りなくあたたかい。そんな副島先生が「こどもホスピス」の理解促進に協力してくださいます！

副島　賢和（そえじま　まさかず）

昭和大学大学院保健医療学研究科　准教授

東京都公立小学校教諭として 25 年間勤務。内８年間品川区立清水台小学校「昭和大学病院内さいかち学級」担任。2014 年４月より現職「昭和大学病院内学級」を担当。学校心理士スパーバイザー。ホスピタル・クラウン。北海道こどもホスピスプロジェクト・アンバサダー。著作に『あかはなそえじ先生のひとりじゃないよ』（教育ジャーナル選書／ 15 年）『心が元気になる学校』（プレジデント社／ 16 年）『赤はな先生に会いたい！』(金の星社／ 18 年) 等。ドラマ『赤鼻のセンセイ』（日本テレビ／ 09 年）のモチーフとなる。11 年には、『プロフェッショナル仕事の流儀』（ＮＨＫ総合）に出演。

支援のおねがい

【賛助会員 (サポート会員）になって継続的に支援する】
①**個人**：年間 1 口 5,000 円から（1 口以上）／②**法人・団体**：年間 1 口 10,000 円から（1 口以上）

【寄付で支援する】
自由な金額、自由な回数でご寄付をいただいております。

【振込先】
ゆうちょ銀行振替口座：００２６０－９－１０４５１８
口座名義：トクヒ）ヨコハマコドモホスピスプロジェクト

※　ゆうちょ銀行以外の他の金融機関からの振込の場合は、
【ゆうちょ銀行】店名０２９（ゼロニキュウ）、 預金種目：当座、 口座番号：０１０４５１８
口座名義：トクヒ）ヨコハマコドモホスピスプロジェクト

※　寄付等で税額控除を希望される方は、横浜市市民活動推進基金「よこはま夢ファンド」制度をご活用ください。お申込み手続きは「よこはま夢ファンド」のウェブサイトでも可能ですが、ご相談いただければ、申し込み用紙を郵送させていただきます。

※　遺贈の相談も承っております。

会報発行者：特定非営利活動法人横浜こどもホスピスプロジェクト
〒 231 － 0003　神奈川県横浜市中区北仲通 3-33　関内フューチャーセンター 164
TEL：050-5239-9672　FAX: 045-550-3459　e-mail: contact@childrenshospice.yokohama　http://childrenshospice.yokohama/
編集担当：　ユック舎